

OKIU

Vol. 115

2021
spring

MAGAZINE



INDEX

- 2 コロナ禍における
本学の対応
- 特集 1
- 4 コロナ禍における
教育活動
- 特集 2
- 10 コロナ禍における
オンライン授業の実践
- 特集 3
- 12 コロナ禍における学生支援
-キャリア支援課編-
- 14 今年の就職活動を振り返る
～コロナ禍で変化した就活～
- 18 図書館 デジタルコンテンツ
- 20 Language Peers
- 24 OKIU研究室探訪
- OKIU青春白書
～活躍する学生たち！
- 30 NEWS TOPICS
ニュース・トピックス
- 34 クラブ・サークル紹介
- 38 沖縄国際大学体育会
および文化会について
- 39 人事情報
- 40 大学行事案内



松川 竜也

企業システム学科 3 年次

人脈を広げることを目標に沖国に進学しました。学科の授業では会計学をはじめ専門的なことを学びながら、サークル活動や外部でのイベント、ボランティア活動を通じて人脈を広げられました。やる気次第で、いくらでも成長することが出来るのが大学です。これからも志を高く努力していきます。

コロナ禍における 本学の対応

令和2年春からの新型コロナウイルス感染症拡大は、社会や経済ばかりでなく大学にとっても、多大な影響をもたらしました。本学は、政府の緊急事態宣言が発令された4月16日以前に危機管理対策本部を設置(4月3日)し、学生及び教職員の「健康と命」を守ることを最優先に、講義、部活動、感染防止策等について議論、実施して参りました。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不安と戸惑いの中、対面授業を遠隔授業(オンライン授業)と課題学習に切り替えることとし、緊急措置として、皆様の学修環境を整えるこ



沖縄国際大学 学長

前津 榮健

とを目的に、大学運営には欠かせない基金の積み立てを令和2年度は取りやめ、特例授業修学支援奨学金の支給、奨学金の拡充、パソコンの貸出等を行いました。

これまでに経験したことのない事態の下で、パソコンやスマートフォンを使用した受講形態や数多くの課題提出に苦慮したものと察します。各先生方におかれても、様々な創意工夫で遠隔授業等に対応して貰いました。その中から、対面授業、遠隔授業の意義や課題等も学ぶことができました。

新入生の皆様には、入学式の中止や入構制限など、大学に入学はしたものの大学生活を実感することもなく、不慣れな機器操作や提出課題の作成等に、また、4年次の皆様には、どのように就職活動を進めればよいのか、今後の学生生活や将来への不安や心配も感じたものと思います。例年にはなかった皆様のこのような不安や悩みに対し、大変心を痛めております。

皆様のこのような経験は、ウィズコロナ、アフターコロナを考えた場合、決して無駄なことにはならないものと思います。今後、技術革新が一層進展し、社会や生活に大きな変化をもたらす中で、これまでの経験がきっと活かされるものだと思信いたします。現に、オンライン等による企業説明会、採用面接を通して、採用内定を得たとの報告も届いていますし、企業の働き方についても大きな変化が起きています。

残念ながら、感染は未だ収束していません。しかし、人類は、これまでも叡智と努力で様々な感染症や難病と闘い克服してきました。現在、私たちを苦しめている新型コロナウイルスについても、予防薬や治療薬等の開発が進み、安心して勉学に集中し、大学生活が満喫できることを願っております。

沖縄国際大学は、教職員一同、皆様を感染の危険から守り、質の高い教育の機会が確保できるようこれからも学修環境を整備し、サポートして参ります。

コロナ禍 教育活動

特集 1 における

安心・安全と学修機会の保障のために —本学のコロナ対応—

沖縄国際大学 副学長 小柳 正弘

新型コロナウイルス感染症の沖縄県での感染拡大をふまえ、沖縄国際大学では、昨年度末から、理事長・学長、副学長、常務理事、教務部長、学生部長、図書館長、事務局長、法学部長、経済学部長、産業情報学部長、総合文化学部長を構成員とする危機管理対策本部はむろんのこと、授業や学生のケアにあたる教員、学生・教員をサポートする事務職員のすべてが、知恵を絞り、力を尽くして、学生の安心・安全を確保しつつ多様な学修機会を保障するため、感染予防・罹患対応ならびに教学運営・修学支援に努めてきました。これまでにない災厄に直面して試行錯誤を繰り返すことにはなりましたが、こうした経験をこれからの取り組みに活かしていかなければなりません。以下、本学の新型コロナウイルス感染症対応について、教務部長、学生部長、図書館長、常務理事がふりかえります。

I コロナ禍での「オンライン授業」

教務部長 西岡 敏

2020年4月、本学は通常通り講義が開始できるかは分かりませんでした。新型コロナウイルス感染への警戒感が強まり、学内外からこのまま講義を開始して大丈夫なのかという意見が多く寄せられていました。当初は、開始延期案もあったのですが、本学では当初の学

年暦通りに始めています。そこには、困難な状況にあっても「学び」を止めないという強い意志も働いていたように思います。2020年度前期の第一週は、「電気通信的な手段を活用して、[一中略]履修指導を行う」と伝えられました。「電気通信的な手段」、すなわち、約

200年近く前に発明された「文明の利器」が、現在はPCやスマホの端末となってお互い同士がつながっている、その今日的状況を感染防止のために最大限に生かさなければなりません。こうして、本学の「オンライン授業」は開始されました。

本学にオンライン授業ができる環境が整っているのかも不安材料でしたが、幸いなことにオンライン授業に使えるアプリがすでにいくつかあり、学生も教員も自由に使えるものが準備されていました。あとは、その活用法を「覚える・慣れる」ことがオンライン授業のためには必要でした。前期第1週の2020年4月9日と10日の2日間にわたり、本学教員のために「遠隔授業で活用できるツールの講習会」を行い、Teams、Zoom、Moodle、Calabo Bridgeなど、オンライン授業で使えるアプリの解説を講師の方々にいただきました。FDにも係る取組でしたが、その後、多くの先生方にオンライン授業を実施していただき、感染が収束しない中においても「学び」の継続を確保してくださいました。また、新しい授業のあり方、可能性についても示してくださいました。

前期における先生方のオンライン授業での成果は、2020年9月4日、5日、12日の3日間、「遠隔での授業のための共同研修会(とうびんす・まーる研修会)」で紹介されています。沖縄語の「とうびんす(飛び衣)」でオンライン



ICT研究会(オンライン)での基調報告(西岡教務部長)

授業を象徴的に示し、「まーる(共同)」を加えて、協力し合うことを表しています。「オンライン」という翼(つばさ)を得た教員同士が互いの知恵を集め、よりよい授業を築き上げていくという意味合いが込められています。そこで紹介されたオンライン授業の事例は先生方へのヒントとなり、後期の授業改善に大いに役立っているとも聞いています。

対面授業の教育効果については重々理解するところですが、コロナ禍によって前進を余儀なくされたオンライン授業の可能性も捨て去りがたいものがあります。アメリカ大陸のうちなーんちゅとオンライン授業でつながった事例や、全国の大学の研究室間でオンライン・ディベートを行った事例など、オンラインの効力を遺憾なく発揮した授業展開も報告されています。これからは、「対面」と「オンライン」の長所をどう組み合わせるかが鍵となってくるでしょう。



学内共有スペースでのオンライン授業受講

Ⅱ 学生部における新型コロナウイルス感染症の対応

学生部長 上江洲 薫

学生課では感染防止の対策を多く行っている。学生等の感染拡大を防ぐため、4月初旬に、春休み中に感染者が増加している県外に渡航する学生も多くいたことから、ゼミ生の体調と行動履歴等について教員を通じて保健所より早く把握し対応することとしていたが、7月下旬に複数の本学学生が新型コロナウイルスに感染したとの連絡が学生課に入り、速やかに学務課の職員と共に感染学生に接触した学生への連絡し自宅待機を伝えた。本学学生の感染を受けて、感染した場合・感染した症状がある場合・濃厚接触者等となった場合に対応するため、新たに詳細な「新型コロナウイルス感染等の場合の本学への報告流れ」図を作成している。また、学生課に新型コロナウイルスに伴う講義の欠席扱いの基準や入構停止などの問い合わせが多かったことから、「新型コロナウイルス感染症に関する入構停止の基準」の一覧表を作成した。

9月下旬に「沖縄国際大学感染予防ルール（利用ルールも含む）9月改訂版」の策定に合わせ、厚生会館、サークル棟、学校バス、セミナーハウス、体育系・文化系サークルの感染予防ルールを作成した。体育系・文化系サークルの活動に関して、7月初旬に9月以降の派遣・遠征等には教員・顧問等が付き添い感染予防に努めることとした。9月から活動を再開する場合、感染防止の観点から、各団体が活動計画書を事前に作成したり、活動参加者の体調を記録した健康観察表を定期的に提出している。

5月下旬には健康観察表（学生用・教員用）を作成し、その観察表を本学HPにも掲載した。また、学生課管轄の厚生会館・サークル棟

の学内施設の感染予防の利用規制とそれら施設での感染対策を示した。今年度の大学祭は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とし、学生の大学祭実行委員会には代替案を検討することを提案したが、最終的には代替イベントも実施しないこととなった。

7月下旬から沖縄県内での新規感染者の増加や米軍関係者による市中感染も広がっていることから、ゼミでの調査や懇親等を目的とした学外ゼミ費や福利厚生費およびセミナーハウスの利用停止を行い、9月からは懇親等を目的としたゼミ等の課外活動の利用を停止した。

健康相談室では、学生や教職員の学内関係者の感染者や濃厚接触者、感染症状がある方などから連絡や相談などを主体的に行い、それらの方が不安にならないよう助言や自宅待機などの今後の対応を伝えている。また、新型コロナウイルス感染症の予防方法や「新しい生活様式」、自宅内での感染予防、新型コロナウイルスの特徴などを定期的に学内連絡で告知や情報提供している。マスク配布に関しては、入校時に義務づけられたマスク着用となっているため、マスク持参できなかった学生にマスクの配布を行った。また、非常講師には学生課窓口で配布を行った。

学生支援室では4月初旬に、「代替授業時に関する障害学生配慮について協力をお願い」と題して、教員に障害学生の代替授業やレポート等の課題提出期間の延長などの要望を行った。また、遠隔授業に対応するため、聴覚に障害のある学生にビデオ会議システムを

利用しての授業でノートテイクを配置し要約筆記を行ったり、音声認識システムUDトークを使用して自動で文字化された文章をノートテイクが誤変換修正などを行っている。6月にはスタッフ1名、ノートPCの更新、タブレットや支援ソフト等の購入などの体制整備を行い、8月に障害学生支援の充実のため、PCノートテイク養成講座を開催し学生サポーターの育成を行った。



少人数でのキャリア支援

キャンパス相談室では、入構禁止措置等もあり対面でのカウンセリングが困難となったため、電話やメールでの対応を行っていたが、入構禁止の解除後は、学生相談、ハラスメント相談ともに対面での面談は避け、メールならびに電話などの非対面式の対応をとると、保護者や学生からの相談が急増した。特に学業の相談が多く、具体的には遠隔授業に伴う課題の提出の方法、課題の見落とし、スケジュール管理の方法などで、これに関連してメンタルの不調も見られた。課題の内容、提出期限の確認、わからない部分を先生に質問する際の手段(電話・メール)と具体的な問い合わせ方法について、相談者と一緒に検討している。また、コロナ関係資料として「学生向けリーフレット(ストレス対処について)」や「教員向けリーフレット」を作成し、大学HPに掲載や学内連絡で提供した。

キャリア支援課では、4月初旬に、本学主催インターンシップは受入先企業の負担や学生リスク等もあり中止とする一方で、自己開拓インターンシップの積極的な通知等で学生の就職活動を支援している。個別企業説明会は企業側から中止連絡が相次ぎ、多くがキャンセルとなったが、後期からは1~2企

業のみの学内企業の説明会や人事担当者との座談会を参加人数限定で感染予防をしながら行っている。また、企業のWEB面接が増加したことから、学内での個室環境の提供とノートPCの提供を就活学生に行った。県外就職活動を行う場合にキャリア支援課やゼミ担当教員に連絡することや感染予防策を講じること、行動履歴や健康状態を記録することなどを伝えている。

これから就職活動を始める3年次を中心に、自己理解や自己PR、グループディスカッション、企業研究、トークセッションなどのセミナーを少人数で感染予防を行いながら実施している。資格検定に関して、当初は感染対策から中止していたが、9月から学内で実施や本学学生のみが受験する資格試験について、感染予防を行いながら実施している。また、キャリア支援課が実施する就職支援対策講座に関して、感染者が多い時期には警察官2次試験対策講座などは面接指導などをオンラインで行ったり、BSATIC(国際会計検定Subject1)の直前対策講座など、学内で感染予防対策を行いながら実施した。

Ⅲ コロナ禍の図書館サービス

図書館長 上江洲 純子

今春、コロナ禍で大学そのものが入構禁止となり、図書館も閉館を余儀なくされる中、図書館の任務を遂行するために何ができるのか、図書館スタッフ一同頭を悩ませながらも、できる限りのサービスを提供する努力をしてきました。

まず真っ先に取り組んだのが、学生や教員が自身のスマホやPCからアクセスできるオンラインサービスの充実です。既存の電子ブックの利用促進はもちろんのこと、試読サービスも利用可能な電子ブックプラットフォームを新たに導入した結果、現在では学生や教員が自宅にいないながら約120万タイトル(試読含む)の電子ブックにアクセスできる態勢を整えています。また、従来は学内利用に限定していた学術データベースの学外利用を可能としたほか、オンラインレファレンス、国立国会図書館デジタルコレクション、ドキュメンタリー動画配信といった新たなサービスを開始するなど提供できるオンラインサービスの幅も広がっています(本学図書館のデジタルコンテンツの詳細に

ついてはP.18-19をご覧ください)。

次なる命題は50万冊を超える館内の蔵書を眠らせないために何ができるか、ということでした。そこでまずは遠隔授業に急遽切り替わって戸惑いの大きかった教員の教育活動を支援するため、授業や課題に必要な図書資料の特別貸出を始めました。「特別貸出」と銘打ったのは、事態の緊急性を踏まえ、通常は館外へ持出禁止の図書や雑誌まで貸出対象としたからです。その後、この特別貸出は学生にも枠を広げ、事前予約型で図書資料の通常貸出を実施できるようになって以降も、入館ができない間は継続して実施いたしました。緊急避難的な措置ではありましたが、他の図書館もサービスを停止する中、学生の学びや教員の教育・研究活動を止めないために必要不可欠なサービスであったと感じています。

そして、学生や教員の「図書館に入りたい」という声を受けて開始したのが「事前予約制入館サービス」です。図書館は館内の貴重な資料を守るために気密性・密閉性の高さがウリの施設ではありますが、裏を返すと排気・換気ができないゆえに、コロナ対策には最も適さない建物となっています。そのため、入館サービスを再開するに当たっては慎重に検討を進めました。その結果、入館上限枠を設けた事前予約制とし、利用時間を設定して入替制とした上で、インターバルをおいて換気・消毒を実施し、貸出機や殺菌庫を活用して非接触型の貸出・返却手続を実現するなど感染防止策を徹底することにより、入館サービスの再開を実現しました。現在は、感染防止策の効率化



電子ブック等をホームページでも紹介

を図りつつ、時間枠や利用者数を段階的に増やしているところ です。

このように、まだまだ通常モードとは参りませんが、本学図書館の事務室内にも掲げられている「図書館の自由に関する宣言(日本図書館協会・1954年採択)」の冒頭文「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもっとも重要な任務とする。」を実現できるよう、今後も図書館として様々な工夫を行っていきたいと思います。



学内掲示版でも図書館利用を呼びかけ

Ⅳ 特例授業修学支援奨学金と 後援会・校友会特別奨学金の給付

常務理事 鵜池 幸雄

令和2年度において、COVID-19に対応した感染防止の観点から講義等の方法の検討を行い、その一環として特例授業としての遠隔講義を実施することとなりました。リモートでの講義を受講するためには、基本的な情報環境が必要となります。このため、この環境を整えるための支援として、講義を受講する在学生に対し「特例授業修学支援奨学金」5万円の支給を行いました。それぞれの学生が置かれている情報環境は異なっていることや、これまで既に独自で環境の整備を行って特例授業に対応している学生もいることから、奨学金としての支給となりました。学部・大学院を合わせた支給額は2億6千万円を超える金額となっています。

令和2年度のCOVID-19の影響により、沖縄県の経済活動においても大きなダメージを負っています。そのため家計が厳しくなったり、アルバイト等による収入が大きく毀損している学生が多くみられることから、本学の保護者

組織である「後援会」、卒業生組織である「校友会」から、通常支援いただいている奨学金に加え、これまでの奨学基金をもとに230名相当に一人10万円の奨学金の給付を設定しました。

また、校友会からは就学環境整備費として特別に2千万円の寄付を受け、特例授業実施に伴い必要となった貸出用・講義のための遠隔授業用ノートPC購入費用として利用させていただきました。



貸与PC や学内Wi-fi 環境を掲示版で周知

コロナ禍 オンライン授業の実践

特集 2 における



経済学部 地域環境政策学科 准教授

根路 銘 もえ子

オンライン講義への転換は、 新しい事へチャレンジするきっかけに!

2020年度講義開始直後に大学の講義はオンライン開講を余儀なくされ、教員はその対応に追われました。まず、通常の講義内容をオンラインで実施するために何が必要か、を考えました。情報化社会の現代においては、様々なツールが利用できるものの、学生・教員が使用できるツールおよび環境を確認する必要があります。幸いなことに、本学ではオンライン講義を実施できるシステムがありましたので、そのシステムを利用することにしました。

しかし、これまでに学生も教員も使用したことがないシステムであったため、まずは講義を実施するために最低限必要な使い方を両者が習得する事に重点を置きました。

一般的な対面講義では、1.出席確認、2.講義資料配布、3.講義、4.講義中の質問および回答、5.講義のフィードバック等が1回の講義内で実施され、場合によっては「課題」、さらには「試験」を実施します。

私が担当するオンライン講義では、1.出席確認はフォームへの回答もしくは、リアルタイム配信の場合は入室データによって行います。2.講義資料配布は、事前に講義案内をする際にファイルを添付し、事前に各自でプリントアウトしてもらいます。3.講義については、科目によってリアルタイム配信・オンデマンド配信を使い分けています。4.講義中の質問および回答は、利用システムのチャットで行います。5.講義のフィードバックについても、フォームへ回答してもらいます。その際、受講した講義の配信状況(音声や映像)も確認します。

オンライン講義で苦労した科目は、実習系科目ですが、前期講義を踏まえて後期講義は次のように工夫しています。まず、事前に操作説明動画を項目ごとに分割して撮影しておきます。学生は講義時間中に講義資料を見ながら作業しますが、わからない場合には動画を確認しながら課題を進めます。その一方で、チャットで機器のトラブルやソフトのエラー等に関して私に質問できるようにしています。私は学生からの質問に答えながら、提出された順に課題内容を確認し、誤りがある学生に対してはコメントして「返却」し再提出を促します。実習系の科目では、エラーを学生自身で見できないケースが多いため、チャット等を通して学生の作成状況等を把握することで、対面講義に近いフォローができたと感じます。また、講義内容説明とフォローを同時に行うのは難しいですが、事前に操作説明動画を作成する事で、対応できたのではないかと思います。

一方、リアルタイム配信講義においては、チャット等で質問に答えてもらうことで、講義への能動的な参加を促す工夫も必要です。また、受講時に音声や映像が見られないケースもありますので、レコーディング機能で録画しておき、受講生であれば講義終了以降であっても内容を見られるようにする事で、対応しています。



Microsoft Teamsを使用しているオンライン授業風景

オンライン講義の実施は大変な面もありましたが、その一方で、私にとっては新しい事にチャレンジする気持ちを思い起こすきっかけになりました。また、学生の皆さんは、先生方によって異なるツールに戸惑いや混乱もあったかとは思いますが、この一年で確実に情報化社会に通用するスキルを身に着けたと思います。このチャレンジ精神と対応力でコロナに負けず大学生活を過ごしましょう。

コロナ禍 学生支援 —キャリア支援課編—

特集3 における



感染対策を講じての企業説明会(沖縄労働金庫様)

2020年度卒業生の就職活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。昨年3月開催予定だった県内外企業説明会中止が相次ぎ、会社説明会や採用試験もオンライン化するなど、今までに経験したことがない状況下での就職活動を強いられました。

その状況の中で、本学キャリア支援課では今必要とされる学生支援が何かを話し合い、「先が見えないコロナ禍を乗り越えるために、学生に『卒業後の生き方』を考える環境を整え、支援する」という方針を決めました。

ここでは、コロナ禍における支援内容を具体的に紹介します。

就職支援では早い段階から生きること、働くことの本質を考えさせ、こういった状況下でも学生と企業の接点づくりに工夫を凝らしています。

■ゼミ・トークセッション

2020年度は全学年のゼミを対象に企業関係者を囲む「ゼミ・トークセッション」を始めました。毎回、県内企業2社の社員をお招きし、「社会人から学ぶ人間力」をテーマに「大切にしている言葉」「家族」なども含め

様々な質疑応答を座談形式で行います。就職ノウハウから入るのではなく、学生一人ひとりが「なぜ自分は働くのか」ということから考えてほしいからです。

■キャリアアドバイザー

個別の悩みには、常駐するキャリアアドバイザー3名がキャリア形成の考え方からエントリーシートの書き方・添削まで幅広く対応しています。

県内学生は首都圏に比べ、就職活動が遅

れがちですので、きめ細かなサポート体制を心掛けています。

就職支援では先生方の働きかけも重要です。毎年、企業の採用担当者と教員が一堂に会する県内企業との懇談会を通じ、企業の求める人材像を把握し、学生と企業を繋ぐ土壌を作っています。



■ キャリちゃんねる

コロナ禍において、企業との新たなパイプを模索する必要もあり、昨年夏、YouTubeで「キャリちゃんねる」を開設しました。各企業の採用担当者には、「コロナ禍だからこそ見えてきた自社の強み」「求める人物像」など様々な質問に回答していただくことで、企業研究

に最適な内容を提供しています。

また、オンライン面接も増えているなかで、様々な理由により面接環境が整えられない学生には、ノートパソコンと個室を貸し出しています。

就活は人生のゴールではなく通過点。

キャリア支援課は、優良企業に就職させるための組織ではなく、生き方をともに考え進路決定をサポートする組織という意識で今後も取り組んでいきます。



キャリア支援課利用案内～学サボ紹介編～



YouTube

キャリちゃんねる

沖縄国際大学キャリア支援課公式



キャリア支援課窓口

受付時間 9:00～19:00(月～金)

就職関連窓口 TEL:098-893-7779

https://www.okiu.ac.jp/career_support

今年の就職活動を振り返る

～コロナ禍で変わった就活～

昨年から続くコロナ禍で学生生活は大きく変化しました。それは就職活動(以下:就活)も同じです。今までの先輩方が経験した就活とは異なり、学生もキャリア支援課も試行錯誤の毎日でした。

そこで、就活を経験した学生がどのように過ごしたのか、学生サポーター^{*}の皆さんに聞いてみました。冲国生の皆さんがこの記事を読んで、これからの学生生活の参考にできれば幸いです。



(右から) 當山幸生(法律学科 4 年)、星野七海(企業システム学科 4 年)、佐藤知那(経済学科 4 年)、玉那覇淳(キャリア支援課職員)

——今年度は新型コロナウイルスの影響で、変化の多い一年でした。冲国も前期はすべてオンライン授業で大学に来ることがなく、後期もほぼオンライン授業でしたが、皆さんはどのように過ごしていましたか？大変だったことなどを聞かせてください。

當 山：これまで1学年上のゼミの先輩と交流がなかったので、4年生になったら3年生ゼミと交流を積極的に持つことを目標の1つと考えていました。しかし、コロナ禍で交流会を一回も開けず、後輩の名前は二人ぐらいしか覚えることが出来なかったことが悔しかったです。

星 野：私のゼミでは、海外の観光地のマーケティング現場を調査する実習が組まれていて、それを楽しみにこのゼミを選んだんですが、新型コロナウイルスの影響で現地に行くことが出来なくなり、調査内容を変更せざるを得なかったのが大変でした。
また、ゼミのメンバーと集まる、友だちと遊びにいくなども出来なくなり、寂しかったです。

佐 藤：4年生になったら、卒論を仕上げるために、図書館を存分に利用する計画だったんですが、それが制限されたことが悔しかったです。論文執筆のための文献収集も大変でしたし、入構制限されている期間に先生から資料を借りたりすることが出来ないこともあり、大変でした。

^{*}学生サポーター：就職活動の開始から内定を得るまでの経験をもとに、キャリア支援課とともに学生へアドバイスや就職に関わるイベント・セミナーを実施している学生たちです。

——逆に良かったことはありますか？

- 星 野：**これまでは大学に通い、バイトに行き、友だちと会ったり、毎日何かしら動いていたのですが、それがコロナの影響でほぼ出来なくなり、最初は不安でした。スケジュールが空いた分、家でのおんびりする時間が増えたので、自分を見つめる時間が増えました。その時に過ごした経験が、自分自身のためになったと思います。
- 當 山：**僕もそれがあった。それまでは時間があれば友だちと会うことに時間を使っていたんですが、コロナの影響で家にいる時間が増えることで不安が出てきました。不安な自分を考えながら、とにかく何かしようと思って SPI 対策など家でできることをたくさんしていました。
- 佐 藤：**私もわかるな。あと、出来ていたことが出来なくなって、家族の大切さとか、当たり前前環境の大切さが身にしみました。

——就活はいつごろから始めましたか？

- 當 山：**3年生のころに、「インターンシップ」という体験型の授業があり、それに登録したことが、就活のスタートだと思います。すでに就活を始めていた友だちもいて、この授業を受けているうちにやばいなって思うようになりました。そう思い始めた矢先にコロナウイルスの影響による行動制限下になったので、とりあえず今出来ることをしようと思い、先ほども話した SPI 対策にガッツリと取り組みました。その対策が、就活を本格的にスタートしたといえるんじゃないかなって思います。
- 元々就活というものにあまり興味がなかったもので、周りより動くのは遅かったと思います。ある意味、コロナのおかげで自分自身に向き合うことができ、就活対策の時間をもらえたと思っています(笑)
- 星 野：**家族や友だちのアドバイスもあり、1年生の頃から就活を気にしていました。動き出したのは2年生になってからで、沖縄県が主催している「Gut's」に参加し、就活に使える検定試験を受けたり、就活イベントに参加したりしていました。本格的に活動を始めたのは、3年生の2019年10月ぐらいからで、キャリア支援課の職員に面接対策をしてもらったりしていました。コロナ禍でイベントが無くなり、友だちと会えない中でしたが、どうにか周りとの連絡をとりながら、支えられながら乗り切れた感じです。
- 佐 藤：**星野さんと一緒に、2年生になる直前に参加した「Gut's」のイベントからスタートし始めました。もともと、自分で動くことが苦手な性格だったので、色んなことに参加しよう、というのが一歩でした。本格的に就活を考え始めたのが、3年生になる直前で。



佐藤 知那 [さとう ちな]

経済学部経済学科 4年



星野 七海 [ほしの ななみ]

産業情報学部企業システム学科 4年

——コロナ禍における就活なので、先輩たちと内容が異なっていたと思います。その中で感じていたことを教えてください。

星 野：オンライン面接で大変だったのが、アプリの違いです。A社はZoom、B社はTeamsなど企業によって指定するアプリが異なっており、それを準備するのが大変でした。最初の3社ぐらいはオンライン面接に慣れるための面接って感じでしたね。

また、私の前後にも面接を受ける人がいたので、対面じゃない分、私の持ち時間をとても意識しました。

あと、家でオンライン面接をうけていたので、家族が気になりましたね。そこで、あらかじめ面接時間帯を伝えて、席を外してもらう協力をしてもらいました。

當 山：僕は通信状況が安定しないことが大変だった。緊急事態宣言の中で外に出ることが出来ない、家のネット環境で面接を受けたくのですが、通信状態が悪くなって、企業側や集団面接を受けている人たちに迷惑をかけたりしました。

それと、集団面接時にオンライン上なので、相手がどんな人とか感情とかが対面と異なり雰囲気を感じ取れないことがありました。その不安をキャリア支援課職員に相談にのってもらいながら乗り越えました。

佐 藤：オンライン授業でもそうだけど、感情とか空気が読み取りにくいのあるよね。

だから、私は、先輩たちと違う就活スタイルなので、自分で決断する、ということを強く思って面接に挑んでいました。

——自分で決断する、というのは具体的にどういうことですか？

佐 藤：これまでの就活だと、友だちと一緒に情報共有をしながら行動していたと思うんですが、コロナ禍によって一人にさせられたんですね。そのため、他の人の情報が入ってこない。でも、ネットには様々な情報がありすぎて迷いが生まれました。なので、他の就活生がどういう風に動いているのか？というのを自分でイメージしながら、自分を信じて動くというのが、自分で決断するという意味です。

今までの先輩方とは力の試され方が違うんじゃないかなって思います。

一 同：わかる。

當 山：それに加えて、周りの話やネット情報をそのまま試してみるんじゃなく一度立ち止まって考え、決断して行動に移した方が、納得している分、自分自身の行動も含めて説明が出来るようになった。何も考えずに行動したら、相手から聞かれたりすると答えきれないし、自分自身も何しているかわからなくなるしね。



當山 幸生 [とうやま こうせい]

法学部法律学科 4年

聞き手

玉那覇 淳 [たまなは じゅん]

キャリア支援課職員
当座談会進行役



——皆さんが経験した就活のスタイルがコロナ禍ではスタンダードとなるとと思いますが、経験者として後輩たちへアドバイスを！

當 山：通信環境や自分が使用する端末について調べて、事前準備をしっかりやってください。キャリア支援課内にある個室を事前に予約して、面接を受けたりするのもアリだと思います。学内の Wi-Fi 環境はしっかりしているので！

あと、友だちとオンライン上で集団面接の練習するのもいいと思います。

「備えあれば憂いなし」です！

星 野：自分の安心のためにも、誰かと繋がっていて欲しいと思います。友だちだったり、大学の教職員だったり、バイト先の仲間だったり。不安になった時に、周りの支えがあることが「自分で選択する自信」につながると思うので。

佐 藤：先ほども伝えましたが、私は一人にさせられて不安になった時に、ネットで情報検索をして、何が正しいかわからなくなり、すぐ迷った経験があります。そこで、後輩たちに伝えたいのは、ネットの情報を疑う、ということです。情報収集をしても決めるのは自分なので、「自分自身が納得できる行動」をしてください。

それが、納得いく就活にもつながると思います。

——ありがとうございました。



座談会を通じて、私たち大学側が予測できたこと、できなかったことをまず知ることができました。

皆さんに共通していたのは、コロナ禍によって自分自身と向き合う時間が増えたことでした。今までに経験したことがない逆境に立たされ先が見えない不安のなか、試行錯誤を経て自分なりのあり方を見つけていった、と感じました。その経験が、就活につながり、今の自信につながっていることでしょう。

ここにいるような学生がすべてではないでしょう。もしかしたら少数派、かもしれません。しかし、これからの学生支援において、学生一人ひとりの個性に向き合い「いま」を受け止めながらサポートする重要性を感じた座談会でした。



図書館 デジタルコンテンツ

みなさんの学習・研究を支えるいろいろなデジタルコンテンツが
続々と増加中です。

電子ブック

Electronic Book

電子ブックは、自宅での学習・研究の幅を広げます。
現在、「丸善 ebook ライブラリー」と「LibrariE(ライブラリエ)」などの電子ブックがあります。それぞれ、特徴や利用方法に違いがありますので、目的に応じて、使い分けてください。

丸善 ebook ライブラリー

専門書を中心に取り揃えています。
所蔵していない電子ブックは、「リクエスト(購入依頼)」することも可能です。



LibrariE(ライブラリエ)

小説など、読みやすい一般書・教養書を揃えています。



それぞれの電子ブックの詳細な利用方法は、図書館ウェブサイト専用ページをご確認ください。

他にも、



約150万点の資料が利用できる「国立国会図書館デジタルコレクション」利用開始や新規データベースの導入など、サービスは拡大中です。また、「資料が探せない」「どうやって調べたらいいんだろう」等ご自宅から質問できる「オンライン・レファレンス」サービスも行っています。

動画配信サービス



動画配信サービス「cinema」では、世界中の「イマ」を切りとった選りすぐりドキュメンタリー作品17作品が、「いつでも」「どこでも」鑑賞できます。講義の教材としても利用され、現代社会を考える手助けになります。

鑑賞方法

対象 ※学内者限定

① 沖国大専用URLにアクセス

<https://edu.cinema.info/login.html?gid=23>

QRでアクセス!▶



② IDとPasswordを入力

③ 観たい作品をクリック

④ スタート「▶」をクリック



IDは、沖国大ポータルログイン時のIDです。

(例) 20ZZ001さんの場合
20ZZ001

Passwordは、IDに「okiu1972」を続けたものです。

(例) 20ZZ001さんの場合
20ZZ001okiu1972

詳しい図書館サービスについては、ウェブサイトや沖国大ポータル、公式Twitterでご確認ください。



沖国大図書館



twitter

Language Peers 制度^ニ

☑ 1対1で外国語の会話を練習する機会がほしい！

☑ 語学検定試験に向けて一緒に勉強する仲間がほしい！

☑ 授業以外の時間でもアウトプットの機会を持ちたい！

このような学生の声に応えて、「Language Peers制度」はスタートしました。

Language Peers制度とは、冲国大に在籍する学生同士がペアとなり、国籍・年次・学科を越えて、互いに目標言語や留学情報を教え合い、学び合うことを目的とする制度のことで、2018年からスタートし、すでに多くの学生が活動しています。本制度では、以下の活動が出来ます。

Case 1

外国語を学習したい学生が、他の学生から目標言語を教えてもらう。

Case 2

語学検定試験の合格を目指す学生が、当該試験をすでに合格した学生から勉強法などを教えてもらう、または、同じ目標を持つ学生とともに勉強する。

Case 3

日本語を練習したい外国人留学生が、他の学生から日本語を教えてもらう。

Case 4

留学を目指す学生が、希望する国／地域に留学した経験を持つ学生から留学情報を教えてもらう

「グローバル教育支援センター」の語学学習促進室では、Language Peers制度以外にも様々な語学強化プログラムを行っています。また、国際交流促進室では、留学支援や留学生の受入・サポートなども行っています。ぜひ「グローバル教育支援センター」に足を運んでみませんか？

※2020年度前期の「Language Peers制度」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインのみで活動を行いました。

少しの勇気が国際交流のきっかけを作る

産業情報学科2年次／中国出身（四川省）
蒋皓聿
しやうこうし



法律学科4年次／記念高校出身
佐久川純次
さくがわじゅんじ

佐久川： 私は一年間休学をして冲国大が交流協定を結んでいる天津外国語大学（中国）に留学をしました！冲国大の「海外語学・文化セミナー」を利用して夏休みに2週間程度天津に行き、そこで文化の違いを実感し、もう一度行きたいと思い、留学を決めました。その留学で得た語学力を維持するために、また留学生と交流がしたくてLanguage Peers制度に参加しました。新型コロナウイルスの影響により対面で活動することはできませんでしたが、このプログラムのおかげで蒋皓聿君と友達になることができましたので、とても感謝しています。1年生の頃はグローバル教育支援センターの前を通るとき、他の学生が文化交流をしているのを羨ましく思っていました。でも、声をかける勇気がありませんでした。留学生に声をかけるのはなかなか難しいですね。そんな人にぜひ利用してもらいたいです。ペアで活動ができるので大人数が苦手な人でも大丈夫です。恥ずかしい事なんてありません。勇気を出して交流しましょう。そして、大学生活を有意義に過ごしましょう。

蒋皓聿： 私は日本語を上達させたくてLanguage Peers制度に参加しました。友達を作りたいという目的もありました。活動はオンラインだけでしたが、Peersの活動を通して、日本語の聞き取りがだいぶ伸びたと感じます。また、授業では習えないおもしろい日本語なども教えてもらいました。語学学習だけでなく、私が生活面で困っていることがあったら、日本語のサポートをしてくれたり、地元の人しか知らない沖縄をいろいろと見せてくれたりしました。自分の語学レベルを上げたい人、そして友達を作りたい人はLanguage Peers制度を活用することをオススメします。

先輩から後輩へつながる輪

徳元 梨愛
（とくもと りあ）
英米言語文化学科2年次／球陽高校出身



仲村 未来
（なかむら みらい）
日本文化学科4年次／前原高校出身

仲村： 私は冲国大の国外協定校交換留学生として韓南大学（韓国）に一年間留学しました。そこで培った経験や、留学先の雰囲気、語学堂などについて、これから留学を目指す方のために共有したいと思い、Language Peers制度に参加しました。Peersでは、語学を一方的に教える、学ぶだけでなく、一緒に勉強する、教えあうこともできます。徳元さんからの質問で分からなかった部分は、調べてから教えるということを繰り返すうちに、自分の理解が曖昧だった部分もクリアになり、勉強になったと感じます。また、留学情報についても経験者から直接話を聞ける機会にもなるので、これから留学を目指す人は積極的に活用することをおすすめします。

徳元： 私は韓国語を勉強しており、対一で会話の練習を行いたかったのでLanguage Peers制度に参加しました。2019年後期と2020年前期にLanguage Peers制度に参加しました。2019年度後期は留学生とペアを組み、会話と文法を学びました。また、2020年度前期は仲村さんとペアを組み、留学情報や現地での生活について教えてもらいました。今年、目標としていた交換留学で韓国へ行くことが決まったので、学んだことを活かし、留学先でさらに韓国語のコミュニケーション力を高めたいと思います。Peersでは留学生はもちろん、留学を経験した先輩からも学べる人が多いのでぜひ参加してみてください。

同志を見つけ、モチベーションを高める

宮城 百々楓
みやぎ ももか
人間福祉学科1年次 / 琉陽高校出身



照屋 志輝
てるや しんげん
英米言語文化学科2年次 / 那覇西高校出身

照屋： 私はドイツへの留学を目指しているので、留学に向けての語学学習と、学年や学科を問わず、同じ目標を持った学生と交流をしたかったのでLanguage Peers制度に参加しました。2020年度前期はコロナ禍で、Peersもオンラインのみで活動することとなり、はじめは大変でしたが徐々に慣れていきました。宮城さんとはドイツ語のクラスが違うのでお互いの進捗状況を聞いたり、わからないところをお互いに考え合ったりしていました。また、お互いが知っているドイツの魅力を語り合いました。講義とは違った学習の仕方のできるのでプラスαで語学学習をしたい学生にはとてもオススメです。ペア同士でお互いに目標を定めて学習すると目的が明確になるので学習の密度も濃くなると思います。また、学生同士なので質問しやすいし、ドイツの話や様々な情報が手に入るのにより身近に外国を知ることができます。Peersは語学や留学の学習だけでなく、同じ目標を持った学生や留学生とつながることもできるので、興味がある学生はPeersを活用することをオススメします。

宮城： 私は共通の目的を持った人と繋がることでモチベーションを高めたいと思い、Language Peers制度に参加しました。また、大学情報などを知りたいという気持ちもありました。照屋さんとは履修しているドイツ語のクラスが違ったので、お互いの学習内容を共有することで、ドイツ語の予習・復習をすることができました。また、ドイツの情報だけでなく、大学情報や面白い授業などを教えてもらいました。コロナの影響で学科のイベント等がほとんどなく、先輩と接点が持てず困っていたので、とてもありがたかったです。Peersの交流は一見ハードルが高いと感じるかもしれませんが、そんなことはありません。先輩や同級生と繋がるいい機会だと思います。目標が同じなので話しやすいし、初回の顔合わせでは、スタッフの方が仲介してくださるので気まずくなりません。先輩から大学情報も教えてもらえるので1年生にピッタリだと思います！



OKIU 研究室探訪



Junko Uezu

上江洲 純子

法学部地域行政学科 教授

法律を学ぶ面白さを体感してみませんか？

「法律」と聞くと、たいていの人は堅苦しくとっつきにくいイメージを持つのではないのでしょうか。しかし、私たちの社会は「法」で成り立っており、人は朝起きてから夜寝るまで、あるいは眠っている間も、知らず知らずのうちに、いくつもの法やルール適用を受けています。また時には、法が窮地に立たされた人の身を守ってくれることもあれば、逆に、法の規制が壁となって立ちちはだかることもあります。「社会あるところに法あり」とはまさにその通りで、実は、法は私たちの生活と切っても切れない身近な存在なのです。だからこそ、法を学び、法的なものの見方、いわゆる「リーガル・マインド」を身に着けた人材は、社会に出てからも「潰しが効く」と評価されるのかもしれません。

そのような人材を育成するため、沖縄国際大学には県内唯一の法学部があり、そこには様々な法分野を研究し、教育を実践している先生方が多数在籍しています。今回は、そのお一人である上江洲純子先生に、先生の研究分野である「民事訴訟法」や「倒産法」のほか、研究者を目指したきっかけから現在どのように教育活動を行っているかまで、いろいろお話を伺いました。

研究者を目指したきっかけは？

きっかけは何かと問われると、自分でも「あれ？何だっけ？」と思ってしまうのですが、大学院進学が研究者への道へのとっかかりだとすると、大学4年の春に「院試にチャレンジするぞ!」と決めたのがそもそものきっかけかもしれません。それまでは周りの友人たちとともに大学生活を大いに楽しみ、大学3年の後半からはみんなと同じように就職活動や公務員試験勉強を始めました。そんな中で偶然出会ったのが、後に私の修士論文のテーマにもなる民事訴訟法の判例です。

本学と同様、私の在籍していた大学でも専門ゼミは3年生から2年間もちあがりて所属する仕組みで、私は民事訴訟法のゼミを選択しました。なぜ民事訴訟法だったのか今でも不思議ですが、おそらく大学2年生のときに学生アルバイトで動員された「日本民事訴訟法学会」の印象がとても強く残っていたのだと思います。本や論文で名前だけしか知らない研究者の先生方が目の前にいて、しかも「動いている!」のは驚きの体験でしたし(笑)、当時は学会ということとても堅苦しいイメージを持っていたこともあって、学生相手に気さくに話しかけてくださる先生方が多くて、そこで研究者に対するイメージが大きく変わりました。だからといってその時に「研究者になろう」なんて大それたことは全く思ってもみませんでした…。

それで話を戻しますと、大学3年生で所属した民事訴訟法ゼミで、私が担当した判例の一つが、報告を終了してもなお、その先を知りたい、と思わせるものでした。何となく、そこで終わらせたくなかったこともあって、有志で行っていた自主ゼミ活動で、学生の面倒をみてくれていた先生や大学院生に相談すると、返ってきたのが「「先を知りたい」ならとりあえず大学院で2年くらいやってみるといいう手もあるので

は?」でした。卒業後の進路として「進学」は全く頭になかったので、このアドバイスはとても新鮮で、「ダメもとでやってみようか」と院試に挑戦したのが、研究者の道へのきっかけといえはきっかけです。

こうやって思い返してみても、偶然の出会いやご縁があって今に至っている気がしています。だからこそ、やりたいことが分からなくて進路に迷っている学生には、どこに出会いやご縁が転がっているか分からないものだから、少しでも興味をもったものに触れてみる、動いてみるのが大事だよ、とアドバイスしています。

本学に採用されるまでの経緯を教えてください

その後、めでたく大学院生になったわけですが、そこから先も決して順風満帆ではありませんでした。当時はまだ法科大学院も設置されておらず、博士後期課程を修了した先輩方も研究職への就職にはとても苦労していました。こうした先輩方の苦労を目の当たりにして、このままでは大学に残るのは難しいという危機感もあって、実は、研究の世界から一度離れ、国家公務員をしていた時期があります。

公務員のお仕事もとても充実していましたが、最後に担当した事業が、日本や東南アジアの若者を対象とした国際交流事業で、その参加者の多くが大学生でした。公務員になると当然大人相手の仕事が多く、こんなに多くの若者たちと接するのが久々だった私にとっては、とても印象深いお仕事でした。若者たちが目をキラキラさせて、自国や世界の未来について語る姿に大きな刺激を受けました。そして、ちょうどその頃に、本学で募集があるとの情報をいただき、さらに指導してくださった先生方がブランクのあった私の背中を押してくれ、最終的には本学とのご縁をいただきました。これが本学に採用されるまでの道のりです。

現在の研究分野について

ブランクがあった分、研究の勘を取り戻すのはとても大変でした。当時研究していたテーマはその時代には話題性がありましたが、既に実務上あるいは立法的に解決が図られていましたので、果たして何をメインテーマとして研究を進めていくべきか悩みながら日々を過ごしているところに出会ったのが倒産法分野でした。さらに、民事再生研究会への参加が、本格的に倒産法分野の研究を進めていくきっかけとなりました。この研究会は、民事再生法施行後10年の運用状況を把握するため、全国の地裁の中から4地裁をピックアップして生の事件記録を調査し、そのデータを分析して法の成果を検証するために発足したもので、対象地域の1つには那覇地裁も入っていました。全国から集まる倒産法研究者の先生方と協力しながら調査・研究を進めたこの経験が、私にとっては今も大きな財産となっています。

現在、特に関心を持って取り組んでいるのは倒産実体法と呼ばれる分野です。倒産は緊急事態を収めるための法なので、平常時に適用される民法などの実体法を変容させ、集団的な権利関係の調整を可能とします。日本の倒産法は、民事訴訟法もそうですが元々ドイツ法を母法としてきました。ただ、再建型の倒産手続についてはアメリカ法の影響を色濃く受けています。そして、そのアメリカ法はといえば、



もともとはイギリス法をベースにしています。こうした関係性をみても比較法的な分析が必要な法分野でもあり、私は専らイギリス法との比較分析を行う手法で今は研究を進めています。大学院生の頃は主にドイツやアメリカとの比較を行っていたので、そのまま継続して研究を続けていけば、倒産法やイギリス法を研究対象とすることもなかったかかもしれないと思うと、人生わからないものだなと思います。

**講義では具体的にどのようなことに注意して学生に教えていますか？
また、特筆すべき授業スタイル等があれば教えてください。**

そうですね。民事訴訟法や倒産法は基本的には裁判手続や倒産手続をどう進めていくか、という手続法なので、手続を解説するだけでは全然面白くありません。民事訴訟法は略して民訴とも呼ばれますが、これをもじって、民事訴訟法の講義は面白くないから眠りの素、つまり「眠素」である、と揶揄されることもあります。なので、そうならないように、実際の事例を出して学生に具体的にイメージしてもらう工夫をするように心掛けています。

スポーツでもゲームでも定められたルールの下で試合や対戦を行いますよね。どういうルールがあるのか、そのルールがどう作用するのかを知れば、スポーツもゲームも知らなかったときと比べて何倍も何十倍も楽しくプレイしたり鑑賞したりすることができるようになります。実は、裁判などの手続も同じです。裁判をゲームに例えるのは不謹慎かもしれませんが、学生には、民事裁判の場合は、定められたルールに則って、裁判官を説得し、より納得させた方が勝つことになるんだという話をします。

実は、こうしたことを肌で経験してもらうために、地域行政学科のゼミでは模擬法廷教室を使って模擬裁判を行い、学生自らが原告・被告・



第24回民事訴訟法合同ゼミナールの様子
※今年度はオンライン開催になりました。

裁判官に分かれて証人尋問を行い、それに基
づいて判決書を書き、実際に勝敗の判断を下
すというを行っています。また、法律学科の
ゼミでは早稲田大学を中心に全国16大学の民
事訴訟法ゼミの学生さんが参加するディベ
ート大会に毎年エントリーし、最新判例につい
て判決に賛成・反対の立場に分かれて討論を
行う経験してもらっています。いずれも本番ま
での準備はとても大変ですが、与えられたル
ールの中で、相手をどう論理的に説得するか
考え、その実効性を確認する、そして、相手
からの反論にどう反撃するか予想を立て、検
証する、といった論理的な思考力を磨く経験
は、きっと彼らが社会に出たときにも何かの
役に立つのではないかと思います。

● 本学を目指す高校生に伝えたいこと

みなさんは今、何者にでもなれる立ち位置に
います。どこにその一步を踏み出すのかによ
って、みなさんの未来も大きく動き出すこと
でしょう。そのため、どうすれば自分にとって
よりよい未来が開かれるのか、大いに悩んで
いる時期かもしれません。そんなみなさんに
一つアドバイスができるのであれば、本当
に自分が興味を惹かれることは何か、やり
たいこと、なりたいものは何かについて、
自分の限界や枠にとらわれずに、とことん
突き詰めて考えてみてほしい、というこ
とです。悩み抜いて出した結論に不正解は
ありません。

そして、もし悩み抜いた先に「法律を学
びたい」という思いを強くした人がいたら、
こんなに嬉しいことはありません。法学の世
界へと繋がる扉は万人に開かれています。
その入り口にはきっと正義の女神テミス
の像が佇んでいるはずです。そんな女神
の祝福を受けながら扉をくぐるみなさん
を、扉の向こう側で楽しみにお待ちしております。



上江洲 純子

うえず

じゅんこ

法学部 地域行政学科教授

筑波大学大学院社会科学部研究科後期博士課程退学
2004年度に本学へ着任。

担当科目は「民事訴訟法」「民事執行法」「倒産法」など
著書として、民事再生研究会『民事再生法の実証的研究』（商事
法務・2014）、倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『倒産法』（有
斐閣・2018）など。

O K I U

青春白書

～活躍する学生たち！～

Yuto Ishikawa
石川 勇人

総合文化学部 社会文化学科 4 年次
(那覇国際高校出身)

>>> THEME

沖縄について知らないことが多いな と感じることはありませんか？

皆さんは沖縄のことを聞かれて知らなかった、と感じた経験はありませんか？意外と知っているようで知らない沖縄のことを知って、そういう歴史があったんだと思った方もいるかと思います。

社会文化学科の石川勇人さんは、大学で平和学ゼミに所属し、特に沖縄戦を中心とした戦争の歴史や、戦争体験者の証言に触れる活動をしています。また、同世代の方と様々な問題を語り合う活動をしており、メディアでも取り上げられています。そこで、石川さんが沖縄の歴史などに興味を持ったきっかけ、現在の活動や今後の展望について、インタビューしました。

沖縄のことについて興味を持ったきっかけを教えてください。

高校3年生の時に沖縄県がおこなっている「ウチナージュニアスタディ事業」というものに参加しました。これは、海外移住者の子弟を沖縄に招待し、県内の同年代の学生と生活をともにしながら沖縄の歴史や文化、自然などを学習するプログラムですが、同世代の海外参加者のモチベーションが高く様々なこと

を知りたがっていたのですが、私自身は沖縄のことについて知らないことが多く、質問に答えきれなかったんですね。沖縄に住んでいるのに答えきれなかったのがショックと悔しさがきっかけとなり、勉強し始めました。

□ そのきっかけで社会文化学科に進学しましたか？

はい、そうです。当初は県外大学に進学を考えていましたが、沖縄のことに学べるところで大学生活を送りたいと思い大学を探していました。たまたま冲国大の社会文化学科のページを開いたときに、当時の学科長だった石垣先生の「私たちは「沖縄」をどれだけ知っているでしょうか。」という言葉に惹かれ進学を決めました。

□ 入学後に「平和学」に興味を持ったようですが、そのきっかけはなんですか？

「沖縄戦の継承」について学んでからでした。戦争体験者が少なくなっている中、沖縄の歴史について興味をもっと持つことと、継承の仕方が課題と感じています。私は、体験者と継承者が一緒に作り上げていく継承という形があっていいと思っています。

□ 石川さん自身の「沖縄戦の継承」取り組みについて教えてください

大学ではSmailife(スマイライフ)というサークルに所属しています。Smailifeは県外からくる修学旅行生に向けて、本島内にある戦跡の平和ガイドをする活動を主にしています。ガイドの前には事前学習などをしたりして知識を得ています。

学外では、宜野湾市の嘉数区自治会の方と協力して、「ぎのわんピースブリッジ」を立ち上げました。これは、嘉数地区に住む戦争体験者から聞き取りをしたり、嘉数地区に住む子どもたちと地域について一緒に学び合いをしています。様々な世代と語り合い

の中から気づかされることが多いです。

また、長崎、広島と沖縄という戦禍がひどかった地域の大学生とオンラインで平和教育について考えるシンポジウムを企画しました。YouTubeで「みるくゆんたく」と検索すると、アーカイブが閲覧できます。活動を通じて意識していることは、沖縄戦を知る、話を聞くだけにとどまらせないということです。学び合いと語り合いを様々な場で実践し作り上げていくことが先ほどお話しした継承の形だと考えています。

□ 今後の展望などを教えてください。

大学で学んでいることと今やっている活動は結びついています。両方を深めたいと考えているので、冲国大の大学院に進学を考えています。

□ 冲国大に進学を考えている高校生へ一言

私は高校3年生になるまで、こんなに沖縄について考えることはありませんでしたが、様々な世代の人と出会い、学び、語り合いをすることが大事だと思っていました。私は、様々な方との交流で平和というところに興味がいきましたが、皆さんも様々なことに興味をもって自分で調べたり、語り合ったり、チャレンジして欲しいと思います。





7月5日・19日・9月13日



初のWEBオープンキャンパスを開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、Zoom(ウェブ会議システム)を使用した初のWEB形式でのオープンキャンパスを開催しました。各学科の学科紹介やミニ講義、教員と学生とのフリートークなどが行われた他、同日・同時間に入試担当者による[LIVE進学相談会]も行われました。初の試みでしたが、7月5日が1,000名以上、7月19日900名以上、9月13日800名以上の参加者があり、大反響で終了することが出来ました。



8月13日

「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」を開催

昨年は、2004年8月13日に本学に米軍ヘリが墜落して16年が経過しました。本学では、事件を風化させることなく、平和の尊さを語りつぐために毎年この平和集会を開催しています。ポケットパーク(ヘリ墜落現場モニュメント)で開催された集いでは、前津榮健康理事長・学長による、普天間基地の閉鎖・撤去を求める旨の声明が発表されました。また、学生を代表し産業情報学部企業システム学科4年次の上原麻奈さん(那覇国際高校出身)と産業情報学部産業情報学科4年次の浦崎直之さん(那覇西高校出身)による、意見発表が行われました。



9月24日

校友会会長賞(学生表彰)の授与式を執り行いました!

校友会会長賞は「文化活動及びその他の分野で本学の社会的評価の高揚に著しく貢献したと認められる個人及び団体」に対して贈られる賞です。例年であれば入学式で執り行いますが、今年度は新型コロナウイルスの影響で入学式開催方法が変更になったため、時期を変更しての開催となりました。今回は校友会会長に代わり学長より表彰を執り行いました。学長からは、「学生の皆様の日ごろの活動の結果が授与につながりました。コロナにより様々な活動に制限がありますが、そのような状況に負けずに今後とも学業とそれぞれの活動を継続してください。」と激励の言葉がありました。

学生表彰は下記の学生になります。

1. 沖国李相典ゼミ 企業システム学科 4年次
実績:「第9回日中韓文化・観光大臣会合」日中韓未来世代フォーラム公募展提案書部門奨励賞 受賞
「第9回日中韓文化・観光大臣会合」日中韓未来世代フォーラム公募展ポスター部門奨励賞 受賞
2. 浦崎 直之(ウラサキ ナオユキ) 産業情報学科 4年次
実績:「沖縄デジタル映像祭2019」CM部門 企業賞受賞
沖縄国際大学ヘリ墜落事故インタビュー映像の制作
3. 沖国eスポーツサークル
実績:「沖縄国際大学・琉球大学eスポーツ対抗戦」総合優勝
「沖縄県内大学eスポーツFESTIVAL」総合優勝
茨城国体文化プログラム事業「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」グランツーリスモSPORTS 都道府県代表決定戦 予選通過
4. 山田 姫乃(ヤマダ ヒメノ) 日本文化学科 3年次
実績:「2019うらそえYA文芸賞」煌賞 受賞
「第15回名桜大学懸賞作品コンクール」詩部門奨励賞 受賞
2019年においてサークル活動の仲間と共に3度個展を開催
5. Teen support room 沖種(学生ボランティアサークル)
実績:「2018年度沖縄県ベスト育児制度賞」受賞

9月28日

後期授業開始!

学生の「健康と命」を守ることを最優先に考え、前期授業を遠隔授業(オンライン授業)と課題学習といった特例授業を中心に実施してまいりました。その中から、対面授業、遠隔授業の意義や課題等も学ぶことができました。後期は、前期の経験を活かし、対面授業と遠隔授業(オンライン授業等)の併用しながら授業を進めていき、新型コロナウイルス感染症拡大防止と多様な学習機会保障を行います。



10月9日

特待奨学生証書交付式を行いました!

各学部において特待奨学生証書の交付式を行いました。本学特待奨学生は「学業・人物ともに優秀で他の模範となる学生」という基準で選考されます。今回、交付対象となった30名には、授業料及び施設設備資金に相当する額が給付されました。対象者の中には3年連続や2年連続で選出された学生もあり、交付式では各学部からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられました。



10月9日

秋季卒業式を挙行了しました!

令和2年度秋季卒業式を各学部にて挙行了しました。各学部長から卒業生へ卒業証書と学位記が授与されました。学部卒業生20名が、それぞれの夢や目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。



10月31日

北は北海道から南は沖縄まで全国16大学の民事訴訟法ゼミ(19ゼミ)によるディベート大会「第24回民事訴訟法合同ゼミナール(2020年度)」、通称「合同ゼミ」が開催され、本学からは上江洲ゼミ(法律学科)が参加しました。この合同ゼミは、早稲田大学と松山大学の民事訴訟法ゼミの2ゼミ交流会からスタートしたのですが、今年度は全国16大学19ゼミから学生・教員合わせて360人以上が参加する大規模ゼミ交流会となっています。ちなみに、沖縄からの参加は本学のみで、上江洲ゼミは第15回合同ゼミ(2011年度)から参加しているとのことです。この合同ゼミは参加校による持ち回り開催のため、今年度は広島大学での開催が予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響により、初のオンライン開催となりました。上江洲ゼミは3つの最新判例テーマにエントリーし、早稲田大学・名城大学・北星学園大学の学生さんと判決理由・結論に賛成・反対の立場に分かれて議論を戦わせました。オンライン開催ということで、ディベート中に通信や機器の不具合が起こることもありましたが、他大学の学生さん達とのディベートを通して、さらに知識を深め合い、様々な視点や考え方と出会うことができ、大学の中だけでは得られない貴重な経験をする事が出来ました。

上江洲ゼミが全国16大学19ゼミによるディベート大会「第24回合同ゼミ」に参加しました!



今年度初の来場型開催では、新型コロナウイルス感染防止のため、学科を分けて2週間に渡り開催しました。入口で検温を行い、座席指定をするなど来場者の皆さまにも多くのご協力を頂きました。今回は学校推薦型選抜試験についての説明を中心に行い、受験生の皆さんは真剣な面持ちで説明を聞いていました。同時に開催したWEBオープンキャンパスでは、各学科によるZoomでの入試説明、入試担当者によるLINE進学相談会も実施しました。来場できない人々たちも受験対策がしかり出来るよう、在学生による入試体験談などもお話ししてもらいました!今回の来場型では新型コロナウイルス感染防止のため、キャンパスツアーは実施出来ませんでしたが、図書館を開放し、自由に見学して頂きました。少しでも大学の雰囲気を感じてもらえたかと思います。



11月1日・8日



来場型+WEBオープンキャンパスを開催しました!



11月13日

【軟式野球部】大学軟式野球秋季リーグ戦優勝!

2020年沖縄県大学軟式野球秋季リーグ戦において、沖縄国際大学軟式野球部は、4勝(全勝)で優勝しました。また、最優秀選手賞に佐久本 慎也さん(法学部 法律学科2年次)

今年度は西日本大学軟式野球選手権大会が新型コロナウイルス感染防止のため、中止となりました。残念ではありますが、来年度も優勝し、全日本選手権大会に出場できるようにチーム一丸で取り組んでまいります。



11月16日

卒業生喜友名諒さん、ギネスに認定!!

本学卒業生の喜友名諒さん(30)が、この度ギネス世界記録に認定されました。空手の国際大会である「空手1プレミアリーグ(世界空手連盟主催)」において2012年9月から2020年1月までに史上最多となる優勝19回という快挙を成し遂げ、その記録がギネスに認定されました。毎年世界各地で開催される同大会は、世界のトップ選手のみが集う国際大会であり、そのような大会において19回も優勝という偉業を達成した喜友名さん。



学報 第114号インタビュー記事より

また、12月13日に行われた空手の天皇杯・皇后杯第48回全日本空手道選手権において男子形個人戦部門で史上初の9連覇を達成されました。2021年度開催予定の東京オリンピック男子空手形でも日本代表候補であり、最もメダルに近い日本人選手と言われています。今後の更なる活躍を期待しています。



11月24日

本学硬式野球部より「琉球ブルーオーシャンズ」への入団が決まりました!

沖縄県に本拠地を置く「琉球ブルーオーシャンズ」に、本学硬式野球部の松川剛大選手(法学部地域行政学科・4年次)がトライアウトを受け合格したことを前津学長へ、仲間常治監督と顧問の慶田花英太先生と共に報告を致しました。

琉球ブルーオーシャンズは2019年7月に設立された新しい球団であり、元NPB出身の選手も多く在籍しており、現在、日本野球機構(NPB)への参入を目指しています。

松川選手は伊江島出身で、美里工業高校時代には夏の大会で準優勝し、捕手で主将も務めました。本学では1年次より主力で活躍し、捕手や二塁手、遊撃手でベストナインや首位打者、打点王、盗塁王などを受賞しています。前津学長から激励され、今後の活躍を誓いました。



12月2日

「第20回学内中国語スピーチコンテスト」が開催

2020年度「第20回学内中国語スピーチコンテスト」がオンラインで行われました!コロナ禍での開催でしたので、審査期間を12月2日から12月9日までの間YouTubeに限定公開をしました。

同コンテストは、本学の学生に中国語で意見発表する場を提供し、中国語力の向上に貢献することを目的として開催されています。今年度は、今年は25名の学生がエントリーし、中国語学習のきっかけや、旅行での体験談など独自のテーマで中国語による表現能力を競いました。1位は、「我喜欢的东西(私の好きなもの)」という題でスピーチした銘田奈々さん(日本文化学科3年)でした。2位は、上地桜子さん(地域環境政策学科2年)、3位は、新城佑果さん(日本文化学科2年)、特別賞は、宇室李穂さん(英米言語文化学科2年)、奨励賞は、松川萌花さん(英米言語文化学科3年)でした。入賞した皆さん、おめでとうございます。

今回はたくさんの方にオンラインでの投票に参加していただき、ありがとうございました。学内中国語スピーチコンテストを盛り上げてくださり、ありがとうございました!



12月6日

学生主催イベント「かじまー祭」が開催されました！

今年度はコロナ禍で、講義だけでなくサークル活動などの課外活動も休止や縮小を余儀なくされました。そのような状況の中、沖国大の芸能サークル4団体が活動の集大成を披露する場、そして「沖国芸能文化の継承」を目的に、自主企画イベントとして開催されました。

開催にあたっては、新型コロナウイルス感染防止のためのガイドラインを独自に定め感染防止対策を徹底していました。そのため、当日は学生のみ観覧となりましたが、学外へはオンライン配信も行い多くの方に沖国大の芸能を楽しんで頂きました。開催にあたり、琉球風車会長の喜屋武元太さん(法学部法律学科4年次/名護高校出身)は「コロナ禍で今年は大学祭が中止となる中、芸能団体が集大成を披露する場を創りたいと企画しました。進める中で大変な事もいろいろありましたが、大学の協力と私たちの活動にご理解を頂いている地域の方々のおかげで無事開催することができました。ありがとうございます。このかじまー祭を通して、大学4年間という短い期間の中で、またこのような困難な状況下でも本気でやりたいことを見つけ、それを共有できる仲間と一緒に行動することで目標を達成できることを再確認すると同時に、私たち若者世代の無限の可能性を感じることもできました」とコメントを寄せました。



12月14日

第26回学内日本語スピーチコンテスト(オンライン)を開催

2020年度「第26回学内日本語スピーチコンテスト」がオンラインで開催されました！コロナ禍での開催でしたので、審査期間を12月14日から12月18日までの間YouTubeに限定公開をしました。

同コンテストは、本学留学生の日本語学習の成果を披露する場として毎年開催されています。今年は、私費留学生、外国人科目等履修生の計23名がエントリーし、コロナ禍での学校生活や自国の文化、今後の目標など様々なテーマで発表しました。「第26回学内日本語スピーチコンテスト」は、上級と中級の部門に分かれて、スピーチを行いました。

上級の部で第一位に輝いたのは、「世界の終わりに何をしますか」という題で、貧困に苦しむ人々への支援の必要性について訴えた、プトゥ アグス エリック マヘンドラさん(英米言語文化学科1年/インドネシア)でした。第二位は、ヘイン テ アウンさん(経済学科1年/ミャンマー)、第三位は、ニワヤン スリウィングリ アンパルワティさん(企業システム学科1年/インドネシア)でした。

中級の部の第一位は、「私たちの母、地球」という題で、地球温暖化対策の大切さについて熱弁した、イ ゲデ オクタ アルタ タルナさん(外国人科目等履修生/インドネシア)でした。第二位は、ニ プトゥ アンギ メリンド プトゥリ(外国人科目等履修生/インドネシア)でした。



12月18日

令和2年度書評・映画評賞の表彰式を開催しました

沖縄国際大学図書館書評・映画評賞は、本学学生の読書・映画鑑賞活動の向上を図ることを目的として、より多くの学生に図書館利用を奨励促進するため、平成18年度から実施しています。

令和2年12月18日(金)に、図書館1階ブラウジングコーナーに於いて表彰式を開催しました。23編(書評19編、映画評4編)の応募があり、図書委員会が厳正に審査した結果、最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作10編の入賞が決定しました。表彰式では、上江洲純子図書館長から各受賞者に賞状と副賞が手渡され、受賞作品について講評を頂きました。その後、入賞者を代表して、最優秀賞を受賞した竜谷みなみさんより受賞のことが述べられました。

受賞者の皆様、本当におめでとうござります。来年も、奮ってご応募ください。受賞作品については、学術成果リポトリに掲載予定です。



1

沖縄国際大学サッカー部

部長

新垣 慶朗

(アラカキ ヨシロウ)

入部方法

主将に連絡(詳しくは練習時に直接グラウンドへお越しください)

部活動場所

沖縄国際大学グラウンド



twitter

沖縄大サッカー部【公式】

<https://twitter.com/OKIUsoccerClub>

男子サッカー部は部員約80名で活動しています。県内トップのリーグに所属しながら、九州大学リーグでは2部に所属しています。平日は7:00~8:30の朝練、土日祝は日程により変動がありますが公式大会や練習試合を行なっています。意欲を持って励んでいる部員が多く在籍しており、人工芝のグラウンド・筋トレルーム・シャワールームなどの設備も充実しているので、部活をするうえで非常に良い環境が整っています。大学では高校までと違い、部活や学校生活も自主性を持って取り組まなければなりません。

是非、サッカー部の一員として社会に出て通用する人材を目指し共に頑張っていきましょう。



2

弓道部

部長

松田 清爾

(マツダ セイジ)

入部方法

部室へ直接 or 事前にメール
をお願いします。

18BB112@okiu.ac.jp

部活動場所

奥武山弓道場
(那覇市・奥武山公園内)



twitter

沖縄国際大学弓道部【公式】

https://twitter.com/OKIU_Kyudo



私たち弓道部は、経験者から初心者まで部員10名で活動しています。毎週土曜日に奥武山弓道場で活動しており、普段の活動だけでなく、県内の大会(年6回)にも出場するなど広く活動しています。また、毎年インカレと九州学生弓道選手権大会にも出場しており、遠征先では、弓道だけでなく観光もたくさん楽しめます!弓道はメンタルが非常に大切な競技です。少しの緊張でも的中に影響するほどメンタルというのは、弓道において大きなウエイトを占めます。高校の時から弓道を続けていて、大学でもやりたい!という方や、弓道を通じて集中力や精神力を鍛えたいという初心者の方も大歓迎です!

弓道に少しでも興味がある方はぜひ連絡ください!お待ちしております!



3

演劇部

部長

當山 瑞季

(トウヤマ ミズキ)

入部方法

18ac057@okiu.ac.jpへの
連絡、Twitterアカウント
へのDM

部活動場所

3-401 (現在は5号館前
の広場・Microsoft teams)



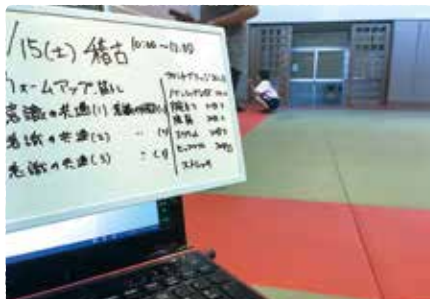
twitter

沖縄国際大学演劇部@TEAM KIROO
https://twitter.com/okiu_engeki



私達演劇部は、沖縄祭での上演を主な目標に日々稽古に打ち込み、設立二年目を迎えました。基本的な稽古日程は月、水、土の週三回、筋トレや発声などの基礎練習に加え台本制作を行っています。現在はリモートのみの活動になりますが、台本制作に力を入れて活動中です。Twitterでは活動の様子も発信中です。(@okiu_engeki)

舞台上に興味がある方、朗読などの声の表現に興味がある方も音響照明大道具が気になる縁の下の力持ちな方も、一度見学してみませんか?経験者も初心者も大歓迎です!連絡お待ちしております!



4

沖縄県学生献血推進協議会

部長

宮城 仁哉

(ミヤギ ジンヤ)

入部方法

okinawa.gakusui@gmail.com

へ連絡または部室まで

部活動場所

サークル棟2階または
赤十字血液センター
(赤十字病院横)



twitter

@okinawa_gakusui

https://twitter.com/okinawa_gakusui



学生献血推進協議会は、日本赤十字社の学生ボランティアで全国にある団体です。私達の活動は、主に若年層に献血の大切さを伝えたり、大学内や外で献血の呼びかけに参加したりすることです。献血未経験者でも大歓迎です。

普段の活動や沖縄祭等では、学生が主体となって企画運営をして、イベントは楽しく盛り上げられるものとなっています！

また、県外との交流などもあり、人脈を広げたり、コミュニケーション能力を磨くいい機会になると思います!!



沖縄国際大学体育会および文化会について

沖縄国際大学体育会は、体育運動を通じて人格の向上を図り、スポーツマンシップを養成することを目的としています。沖縄国際大学文化会は、文化活動を継承・創造する人材を育成し、文化活動による社会貢献の実践を促進することを目的としています。大学での課外活動の中には金銭的負担のかかる活動などもあります。本学では遠征や合宿にかかる費用やクラブ・サークル活動にかかる備品購入費用などの一部補助を行っています。クラブ・サークル活動に必要な経費補助についてのご相談は、学生課窓口(本館 2 階)で受け付けています。

沖縄国際大学体育会・文化会 2019 年度決算書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

体 育 会				文 化 会			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,091,500	事 業 費	16,468,695	会 費	11,290,000	事 業 費	9,911,122
寄 付 金	0	登録費及び参加料	0	寄 付 金	0	備 品 費	222,480
雑 収 入	106	運 営 費	237,480	雑 収 入	184	運 営 費	114,986
前年度繰越金	8,077,264	雑 費	432	前年度繰越金	13,444,940	雑 費	0
		次年度繰越金	5,462,263			次年度繰越金	14,486,536
合 計	22,168,870	合 計	22,168,870	合 計	24,735,124	合 計	24,735,124

[単位:円]

沖縄国際大学体育会・文化会 2020 年度予算書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

体 育 会				文 化 会			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,567,500	事 業 費	19,702,000	会 費	11,671,000	事 業 費	22,051,000
寄 付 金	1,000	登録費及び参加料	1,000	寄 付 金	1,000	備 品 費	2,350,000
雑 収 入	1,000	運 営 費	327,763	雑 収 入	1,000	運 営 費	1,757,536
前年度繰越金	5,462,263	雑 費	1,000	前年度繰越金	14,486,536	雑 費	1,000
合 計	20,031,763	合 計	20,031,763	合 計	26,159,536	合 計	26,159,536

[単位:円]

2020年度 うまんちゅ定例講座 「ボードレス・ダイバーシティ社会に向けて」を開講しました (おきなわ県民カレッジ連携講座)

「うまんちゅ定例講座」は、地域に根差した大学として、日頃の教育・研究を地域の皆さまに還元することを目的に毎年開講しています。普段の日常や、将来の糧となるような知識を共有できればとの観点からテーマを設定し、そのテーマに関連した講座を開講しております。本学の教員を中心に構成された講師陣がわかりやすく解説し、皆さまにも一緒に考えて頂く講座です。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策により普段行っている来場型のうまんちゅ定例講座とは形態を変え、講座をWEB配信するという新しいかたちで開講しました。

- ◇ 多言語景観から見るマルチリンガリズムの包括性と排他性
- ◇ 多文化共生社会における持続可能なコミュニティ通訳翻訳サービスに向けて ー沖縄の現状と課題ー
- ◇ 「世界は舞台」ーシェイクスピア作品に描かれる流動化社会の様態
- ◇ しまくとぅばがオンラインで学べるために
- ◇ 「閉ざされた世界」を開く ー近代西欧と日本における「日本」イメージ
- ◇ 「多文化化する沖縄社会」
- ◇ 手話という言語と ろう文化 ー言語的少数者としてのアイデンティティー
- ◇ 日本語教師の専門性はどこにあるのか ー多文化共生の推進に向けて考えるー
- ◇ 琉球諸語の語学教育 ーポリノミックモデルを応用して

今回の講座内容は、書籍化され2021年4月ごろに全国の書店で販売予定です。



OKIU | 学内人事 | 2020

採用教職員紹介 (9月23日付) ①最終学歴 ②専門分野



経済学部 経済学科 准教授
照屋 翔大 (てるや しゅうた)

①筑波大学大学院人間総合科学研究科博士
後期課程単位取得退学 修士(教育学)
②学校経営学、教育行政学、学校改善論



経済学部 経済学科 講師
高 哲央 (こう あきひろ)

①明治大学大学院政治経済学研究科博士
後期課程修了 博士(経済学)
②財政学、地方財政論、経済政策、租税論



総合文化学部 社会文化学科 講師
月野 楓子 (つきの ふうこ)

①法政大学大学院国際文化研究科博士
後期課程修了 博士(国際文化)
②沖縄移民研究、ラテンアメリカ地域研究、
国際文化学

昇 任:教育職員 (10月1日付)

新 職 名	氏 名	旧 職 名
経済学部 准教授	生垣 琴絵	経済学部 講師
産業情報学部 准教授	李 相典	産業情報学部 講師

Pick Up! OKIU

まもなく

学生会館供用開始!!

学生の快適なキャンパスライフの充実のため、
新たに「スタイリッシュで居心地のいい空間」をコンセプトに、
学生会館を建設中です。3月ごろに供用開始を予定しています。



主要施設

1階 コンビニエンスストア「セブンイレブン沖縄」
沖縄県内の大学、高校等、学校施設ではじめての出店となります。

2階・3階 学生食堂・カフェ
「シタックスコントラクトフードサービス」
定食、カレー、麺類など、定番と日替りでさまざまなメニューを330食程度、提供します。

大学行事案内

12月 28日(月)～1月 3日(日)

1月 4日(月)

1月 26日(火)～2月 13日(土)

2月 2日(火)

2月 7日(日)

2月 13日(土)

2月 15日(月)～3月 31日(水)

2月 25日(木)

3月 2日(火)

3月 6日(土)～3月 8日(月)

3月 19日(金)

3月 21日(日)

4月 1日(木)

4月 2日(金)

4月 2日(金)～4月 5日(月)

4月 3日(土)

4月 7日(水)

4月 7日(水)～4月 13日(火)

5月 7日(金)

冬期休業

後期講義再開

後期試験・補講期間

一般選抜試験(専門高校・総合学科卒業生選抜試験含む)

大学院2月選抜試験

後期講義終了

春期休業

本学創立記念日

再試験(3月卒業)

総合型選抜試験(B日程)

卒業式

春のオープンキャンパス

入学式、第1回新入生オリエンテーション

在学生オリエンテーション

前期・通年科目Web仮登録期間

第2回新入生オリエンテーション

前期講義開始

前期・通年科目登録調整期間

体育祭

※新型コロナウイルス感染症の対応により、大学行事に変更が生じる場合は、本学ホームページでお知らせします。

OKIU SNS

大学公式SNSでは随時情報を発信中です。LINEでは入試広報関連情報を、InstagramとTwitterでは大学構内の風景やキャンパスライフを、Facebookでは保護者や卒業生向けの情報を中心に更新しています。ぜひ一度ご覧になってみて下さい。



LINE
@okikokudai



Instagram
@okikokudai_pr



twitter
@okikokudai_pr



facebook
@OKIU.PR

平和・共生 個性・創造 自立・発展



沖縄国際大学



編集 | 事務局広報課 〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1 TEL.098-893-7629 Email : pubchr@oku.ac.jp

印刷 | 株式会社 東洋企画印刷